

国語 第2学年 あなのやくわりを考えよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の1月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

物にある穴とその役割の関係を読み、自分が見ていた物の見方がどう変わったかを伝える。穴の場所を見つけ、その役割が文章でどう説明されているかを確認める。単元の終わりに残すのは、穴の役割と感想のカード。本文での説明、自分が見た経験、見方が変わった所、まだ確かめたいことを書く。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕C読むこと(2)ア	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。

単元の目標

穴の役割を説明する言葉が物の内容を表す働きに気付ける。穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有できる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①穴の役割を説明する言葉が物の内容を表す働きに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「読むこと」において、穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有している。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全9時間（読む9）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○題名から知りたいことを出し、全文を読む。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○説明された物と穴の役割を対応させる。	知①（語句や内容の整理）
	4	○役割が分かる言葉を確認、自分が見た物と比べる。	学習状況を見て支援する。
	5 （本 時）	○見方が変わったところと本文の根拠を伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	6～7	○感想カードを書き、読んだことと自分の推測を分ける。	学習状況を見て支援する。
	8	○カードを交流し、友達の気づきと自分の気づきを比べる。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○物の説明を読む前後で考えがどう変わったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」 【めあて】物にある穴とその役割の関係を読み、自分が見ていた物の見方がどう変わったかを伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・形だけを見ていたが、穴にも理由があると知った。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・形だけを見ていたが、穴にも理由があると知った。 ・自分が見た物にも同じ働きがあるのか確かめたい。 ・見た目が似た穴でも役割は同じとは限らない。	「物」「穴の場所」「本文で説明された役割」「自分が思ったこと」を分ける。実物を見る場合も使い方や安全を確認、分解や改造は活動に含めない。 想定する難しさ：身の回りの穴の役割を全て推測だけで断定する。役割の説明を名称と取り違える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・見た目が似た穴でも役割は同じとは限らない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「穴の役割を読んで、前に見た物の見え方はどう変わりましたか。本文のどの説明から考えましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

難しさとして、身の回りの穴の役割を全て推測だけで断定する。役割の説明を名称と取り違える。この場合は、「物」「穴の場所」「本文で説明された役割」「自分が思ったこと」を分ける。実物を見る場合も使い方や安全を確かめ、分解や改造は活動に含めない。おおむね満足できる状況は、穴の役割の説明と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 穴の役割と感想のカード。本文での説明、自分が見た経験、見方が変わった所、まだ確かめたいことを書く。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_2_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo みえ先生ラボ

